

レソト

組織名：レソト手話通訳者協会

報告者：フーフォロ・チャールズ・フーフォロ

はじめに

この短い概要説明の意図は、レソトのろう社会の状況とともに、手話通訳の実態について見解を示すことである。レソト（首都マセル）は人口約 180 万人で 10 の地方行政単位を持つ。

手話通訳の現状

我々の通訳者協会はまだできてまもないが、新しい手話話者がレソト手話やレソト手話通訳に興味を持つことから組織はかなりの大きくなっている。この結果、2008 年 11 月 1 日に設立された新しい会員制度ができた。現在 30 人を超える会員だが、ろう者協会（NADL）が新たに通訳者を採用しているので会員は増えるであろう。

手話学習に取り組む人たちは手話通訳の要点を理解している。学習を終えても実生活の中で手話通訳を続けながら通訳の技術を磨いている。つまり、国には正規に手話を学べる学校がないという理由で、職業として通訳している手話ほどには手話そのものを学習してはいないということである。

他に時折、ろう者協会が開催するワークショップがある。言及しておいた方がよいだろうが、手話通訳者の中には、7 年以上もこの分野にいても、手話通訳を始めてから 2、3 回しかこのような研修に参加していない人もいる。通訳者の大部分はこの研修が何だかわからない。

この状況は私たちの職業意識や技術また自信の欠如の表れである。その結果、私たちはろう社会の人々に対して十分なサービスを提供できず、また、手話技術の未熟さにより、ろう者が自分たちに関わる事柄に十分に参加できないという良くない影響がある。支援はしたいが、問題は私たちの能力である。生まれながらの上手な通訳者はいないだろうが、技術を完全にするには訓練が必要である。

このような課題にも関わらず 2007 年からはろう者協会の指導と助言により通訳者協会を何とか立ち上げた。直面する困難はあるものの会員の結束は固い。また、運営規約の草稿ができた。加えて、協会を法的に登録するという次の段階にきている。登録書類を法律事務所に提出したのはそのためである。

将来は国内に手話通訳を職業として実現させることを考えている。このためには相当の訓練が必要である。会員が手話や通訳の技術を身につけるよう協力するための手話通訳者養成のワークショップを開催する計画がある。最大の課題はこれらの事業計画に対しての資金調達である。協会の発展のためにはすべての障壁を取り除く決意をした。これらを実現するためには、協会が力を持つように努力する必要がある。また、世界中の手話通訳者からの支援も必要である。3、4 年後には WASLI に認められるような会員になりたい。特に、私たちの協会から国際手話の通訳者を輩出したい。

ろう社会の現状

手話通訳の講師やろう者に対しての意識からみて限界があるため、レソトの公共サービスは概してろう者にとっては十分なものとは言えない。それにもかかわらず、NADL は会員が 4,500 人以上あり、ろう者の権利を主張するために努力している。この取り組みはろうの指導者のもとかなりの数の人たちが手話を学ぼうとしていることから決して無駄ではない。憲法で認められている公用語はソト語と英語の 2 言語しかない。公用語に手話が含まれていない点で、ろう者を守る法律がないため、ろう社会では様々な事柄が困難となっている。ろう者に教えるのに手話に熟達していない教員もいる。同様の問題は、授業が手話でなされていないろう者のための職業学校でも起こっている。初等教育レベル以上の教育を受けるろう者はいない。法の問題ではろう者を保護する特別の法律はない。それでも、政府は近年、障害や社会復帰の政策を是認してきた。